

令和5年度 鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況							
令和5年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、本校独自の以下自己評価標準を用いる。							
S：計画をはるかに上回る実績を残した A：達成度 100%以上 B：達成度 70%～100%未満 C：達成度 70%未満 -：該当なし							
年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等	計画に対する課題	鳥羽商船自己点検評価	(参考)各係の自己点検評価	(参考)各係の達成状況
1. 1 教育に関する事項							
(1) 入学者の確保							
①-1	広報部会	総務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学対象者が本校の存在を知り、学生生活をイメージできる情報発信に注力する。</li> <li>・ホームページでは入学案内ページを充実させ、オープンキャンパスや授業（部活）見学ツアーの案内を提示した。（オープンキャンパスは夏秋あわせて前年度比137名増加）（授業・部活見学ツアーは、170名参加）</li> <li>・ホームページで学生の活躍や学校のトピックスを高頻度で更新する。R5年度だけで学生の活躍が28件、学校のトピックスが75件を公開。</li> <li>・公式SNSとして、Instagram投稿79件、ストーリーズ51件、Facebook投稿99件、ストーリーズ26件、LINE12件（12月中に有料会員になり送信できるメッセージ数が増加）、X投稿17件（2024年1月にアカウント開設）、YouTube投稿5件、ショート動画2件を発信済み。</li> <li>・SNSによっては発信できない記事（Instagramには文字情報のみの投稿はできない）があるため、学校ホームページと各種SNSを連動させての投稿の自動配信の仕組みは構築しなかったが、事前に作成した記事を予約投稿することで、業務負担軽減を行った。</li> <li>・YouTubeについては、動画による情報発信のため、他のSNSより運営する労力が大きいと、複数チャンネルの運用はせず、まずは1つのチャンネルの運用に専念することにした。</li> </ul>		S	◎	
①-1	教務	教務総務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校における進路説明会に積極的に参加し本校の認知度、学習内容の理解に努める。</li> <li>・他高専との合同説明会にも参加し、志願者増加に努める。</li> <li>・中学校の巡回PRについて、三重県内はもちろん、県外についても積極的に実施する。教員の担当校を明確にし、春秋の2回訪問する。</li> <li>・近隣の教育委員会と連携し、STEAM教育を前出授業・公開講座として実践することで、高専での高度な学習に興味を持つ生徒を増やす。</li> <li>・公開講座や前出授業について、時代に合わせた内容を取り入れ、小中学生はもちろん、一般向けの講座を実施することで、本校への理解を向上させる</li> </ul>		A	◎	
①-2	教務	教務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、従来の学校説明会やオープンキャンパスに加えて、授業見学ツアー、部活見学ツアーや入試問題解説など様々なかたちのイベントを実施し、学校を知って興味を持っていただく機会を増やした。今年度本校主催で実施した説明会・イベントは下記のとおり</li> <li>○Web学校説明会（7/29 土）参加者22組</li> <li>○オープンキャンパス（8/10 木、11 金・祝、10/7 土）参加者325組のうちS科129組、J科183組（前年度同時期参加者243組のうちS科94組、J科153組）</li> <li>○予備校・学習塾向け説明会（10/19 木）参加者22校</li> <li>○授業・部活見学ツアー（11/18 土、11/23 木・祝）参加者 S科27組72名、J科52組98名</li> <li>○中学校教員対象説明会（11/28 火）参加者29名</li> <li>○受験相談会（12/3 日）参加者 S科24組、J科24組</li> <li>○入試問題解説（12/3 日）参加者 44名</li> <li>・オープンキャンパスは多くの参加者が参加できるよう、計3日間実施し、いづれも夏休み期間、土日祝などの参加しやすい日程とした。また、コロナ禍で行っていた参加人数の制限を緩和し、学食体験も再開させて学校生活の雰囲気味わっていただけるよう実施した。</li> <li>・10月実施のオープンキャンパスは、午後の部を女子学生特集とし、質問をしやすい環境を作り実施した。参加者S科13組、J科20組</li> </ul>		A	◎	
②-1	教務	教務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校案内パンフレットに女子学生の写真やコメントを多く掲載し、入学後の学生生活のイメージを提示する。</li> <li>・オープンキャンパスで、女子学生を対象としたコースを設け、女子学生・教員と接する機会を提供する。</li> <li>・高専女子フォーラム、GCQNなど外部で実施される研究紹介イベントで成果報告を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校案内パンフレットについては、今年度4月に写真を撮影し、表紙および学生コメントページの更新を行った。その他プロカメラマン浅田政志氏に撮影してもらった写真等も使用し、各所女子学生の写真も交えつつ写真データのアップデートを行った。</li> <li>・次年度学校案内パンフレットは大幅な更新を予定しているため、内容の検討を実施済み、2月初旬に写真撮影など実施した。</li> <li>・オープンキャンパスは、10月7日の午後の部を女子学生特集とし、女子学生に研究発表や見学アテンドを行っていただいた。10/7（午後の部）女子生徒の参加者数：S科14組中4組、J科22組中約13組</li> <li>・GCQNに豊田高専と共同でエントリーし、CO<sub>2</sub>を吸収する無焼成スマート牡蠣殻タイルを発表、文部科学大臣賞およびJFEスチール賞を受賞。</li> </ul>	A	◎	

令和5年度 鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況								
令和5年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、本校独自の以下自己評価標準を用いる。								
S：計画をはるかに上回る実績を残した A：達成度 100%以上 B：達成度 70%～100%未満 C：達成度 70%未満 -：該当なし								
年度計画	委員会等	事務局	計画の進捗状況等	計画に対する課題	鳥羽商船自己点検評価	(参考)各係の自己点検評価	(参考)各係の達成状況	
②-2		広報部会	・学校ホームページの自動翻訳ツールを導入済み、継続して使用する。 ・海外の船員養成や工業系の学校との連携を模索し、積極的に見学を受け入れ、問い合わせにも丁寧に対応する。 ・英語での学校紹介動画などを制作し、YouTubeにて公開する。			A	◎	
③		教務	・特別推薦、一般推薦、体験学習選抜、学力選抜と多様な選抜方法を継続して実施し、本校の適正に合う学生の確保に努める。 ・卓越した人材を確保するために新たな選抜方法の検討を行う。 ・最寄地受験制度を活用し、広域からの学生募集を行う。 ・Web出願システムを活用する。			A	◎	
(2) 教育課程の編成等								
①-1	校長	企画・地域連携係	・「成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金による継続的支援」の高度情報専門人材の確保に向けた機能強化支援に基づき、高度情報専門人材の育成を具現する学科の拡充・情報系コースの新設を検討する。 ・商船系5高専が協力して次世代海洋人材の育成と質の向上に努め、練習船を利活用や他機関との連携の充実に努める。 ・練習船「鳥羽丸」の代船（商船高専系三番船）および練習船「若潮丸」の代船建造について、商船系5高専が連携して取り組む。 ・情報機械システム工学科の学年進行が5学年まで完成することから、専攻科の海事システム学、生産システム工学専攻の教育課程の見直しを完成させ、本科の学科拡充・情報系コースの新設に同期したシームレスな教育課程を完成させる。 ・地域の行政、高等教育機関や海事・海洋ならびに情報機械システムなどの産業界との連携を深化させ、課題解決学習はじめ教育の諸活動で学生が活躍できる場を提供するとともに本科・専攻科の留学生を含めた国際交流の機会を充実し国内外で活躍できる人材育成に資する。 ・GEAR5.0については、農林水産業「研究開発プラットフォーム」に基づきウニの閉鎖式陸上養殖、全国高専ご当地発酵飲料・食品開発と販売、産業廃棄物のリサイクルによる異分野連携実現のため、教員間、学生アイデアソン等を対面及びオンラインで開催し、連携を行い、関係性を深化させている。 ・ピズリーチを通じて学校経営（カリキュラム）アドバイザーを採用し、今後のカリキュラムの編成について検討を開始した。			A	◎	
①-2		教務	・豊橋技術科学大学や長岡技術科学大学出身の教員を按点として、試行的に連携教育を実施しつつ、連携教育プログラムの実現を検討する。 ・社会ニーズを踏まえた高度な人材育成として、産業界と連携したインターンシップを実施する。 ・地域課題を解決するための共同研究を実施する際に、学生も参画させ人材育成に繋げる。 ・客員教授制度を活用し、民間企業や行政機関の研究者等を実務家教員として登用する。			A	◎	
②-1	教務グローバル教育推進室	学生生活	・学生派遣を実施しているMELキャンプ等や逆に本校に短期留学生を受け入れて実施するプログラムを複数用意し実施する中で単位認定や単位互換についても検討する。 ・「鳥羽商船高等専門学校の主催事業における海外渡航及び滞在に関する実施基準」に沿って、その具体的なプログラム内容を精査して改善を推進する。 ・海外留学を経験した学生に積極的に学内で発表を行わせ、海外留学未経験の学生の留学意欲を向上させる。 ・新たな受け入れ先となる海外の教育機関の選定や交渉を実施する。			A	◎	

令和5年度 鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況								
令和5年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、本校独自の以下自己評価標準を用いる。								
S：計画をはるかに上回る実績を残した A：達成度 100%以上 B：達成度 70%～100%未満 C：達成度 70%未満 -：該当なし								
年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等	計画に対する課題	鳥羽商船自己点検評価	(参考)各係の自己点検評価	(参考)各係の達成状況	
②-2	グローバル教育推進室	学生生活	・2024年3月にシンガポールポリテクニクの学生を受け入れて1か月程度のプログラムを実施することを計画していたが、SP側が学生を派遣することができないという連絡があり、今年度は中止となった。 ・SMAの学生を受け入れて鳥羽丸トレーニングを実施することを計画していたが、SMAから日本に学生を派遣することができないという連絡があり、今年度は中止となった。 ・本校学生のTOEICを通じた英語力の向上に向けては、外部講師を招聘しTOEIC対策特別講座を実施し、10名の学生が参加した。(10/7～9) ・オンラインでの自学自習を促進するために、オンライン学習システム「ALC NetAcademy NEXT」を導入し、8月10日に学生に周知した。			A	◎	
③-1	教務学生	学生生活	・第36回アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2023 東海北陸大会において、全国大会への出場を果たした。また、デザイン賞、特別賞(輪デザイン)を受賞した。 ・第34回全国高等専門学校プログラミングコンテストにおいて、課題部門と自由部門で優秀賞を受賞した。 ・第4回全国高等専門学校ディープラーニングコンテスト2023(DCON2023)において、ezaki-labが経済産業大臣賞の受賞及び企業評価額で第2位を受賞、この他に企業賞(アイング、アクセスネット、トヨタ自動車、丸井グループ)を受賞した。また、Shiraishi-Labが文部科学大臣賞を受賞した。 ・第2回高専GIRLS SDGs×Technology Contest (高専GCON2023)において、文部科学大臣賞、JFEスチール賞を受賞した。 ・第12回気象観測機器コンテストにおいて、優秀賞、佐々木嘉和賞(選考委員特別賞)を受賞した。 ・GNSS・QZSSロボットカーコンテストで敢闘賞を受賞した。 ・パソコン甲子園2023のモバイル部門で企業賞(情報システムエンジニアリング賞)を受賞した。 ・第31回衛星設計コンテストにおいて、ジュニア部門奨励賞を受賞した。 ・ロボコン、プロコンの活動を支援するため奨学後援会からの寄付金をいただいている。 ・全国高等学校総合体育大会(インターハイ)に少林寺拳法部が出場した。また、全国高等専門学校体育大会に剣道部、水泳部が出場した。 ・2023少林寺拳法世界大会に少林寺拳法部が出場した。 ・全国商船高専漕艇大会においてカッター部Aチームが優勝、Bチームが準優勝した。			S	◎	
③-2	教務学生寮務	学生生活	・地域のNPO法人「故郷の海を愛する会」が主催する小中学生向けのイベントに本校学生がボランティアスタッフとして参加した。(7/26、8/2、10/7、12/9) ・鳥羽へのクルーズ船来航に際して、学生が語学ボランティアとして地域貢献を果たしている。			A	◎	
③-3	グローバル教育推進室	学生生活	・外部の各種奨学金制度については、学内の主要な掲示板に掲載するとともに、関係指導教員にも通知し、学生への情報提供に努める。 ・「トビタテ!留学JAPAN」プログラムに関する学内説明会を行うだけでなく、学生の申請を支援する。 ・国際会議の開催案内を学内掲示、ポータルサイト、メール等で情報共有し、応募を促す。			A	◎	
(3) 多様かつ優れた教員の確保								
①	教員選考	人事労務	・専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つとして、博士の学位を有する者を原則とする。			A	◎	
②	教員選考	人事労務	・大学・高専成長分野転換支援基金等を利用したクロスアポイントメント制度の活用について検討し、相手方企業と協議した。			A	◎	
③		人事労務	・ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を周知する。 ・女性研究者支援プログラムなどへ積極的な応募を促すなど、女性教員の働きやすい環境の整備を進める。			S	◎	
④	教員選考	人事労務	・外国人教員の積極的な採用について検討する。			A	◎	
⑤	教員選考	人事労務	・長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学との連携を図りつつ、国立高等専門学校・両技術科学大学間の教員人事交流制度について周知する。 ・国立高等専門学校間の教員人事交流についても周知する。			S	◎	
⑥	教員選考	人事労務	・法人本部主催の研修に教職員を積極的に参加させる。			A	◎	
⑥-2	教員選考	教務	・教員FDとして次の2点について実施し、報告を行った。 (1)授業の質改善につながる意見交換(低学年対応、成績不振者対応、大教室授業の質改善など) (2)成績評価方法の相互レビュー(ポートフォリオの詳細、課題の出し方・作成方法、試験の難易度など)FD(後半)として、班別での相互授業見学・授業録画動画の共有による意見交換をした。			A	◎	
⑦	校長	人事労務	・引き続き教員顕彰等への推薦を行う。			A	◎	
(4) 教育の質の向上及び改善								

令和5年度 鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況							
令和5年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、本校独自の以下自己評価標準を用いる。							
S：計画をはるかに上回る実績を残した A：達成度 100%以上 B：達成度 70%～100%未満 C：達成度 70%未満 -：該当なし							
年度計画	委員会等	事務局	計画の進捗状況等	計画に対する課題	鳥羽商船自己点検評価	(参考)各係の自己点検評価	(参考)各係の達成状況
①	教務	教務	・教育の実質化に向けて教務委員会において3ボリ（アドミッション・ボリシー、ディプロマ・ボリシー、カリキュラム・ボリシー）の見直し。 ・ルーブリック明示による到達目標等の具体・共有化はIRを通じて教員会議等で公表、実証的に浸透を図っている。 ・（再掲）教員PDとして次の2点について実施し、中間報告を行った。教学・マネジメントの一環として実質化に努めている。 (1)授業の質改善につながる意見交換（低学年対応、成績不振者対応、大教室授業の質改善など） (2)成績評価方法の相互レビュー（ポートフォリオの詳細、課題の出し方・作成方法、試験の難易度など） FD(後半)として、班別での相互授業見学・授業録画動画の共有による意見交換をした。			A	◎
②	点検評価	企画・地域連携	・毎年度末に実施の運営諮問会議において、外部委員からの評価を受け、教育の質の向上に努めている。 ・教員の個人活動にかかる自己評価を実施し、校長、副校長で一次評価を実施し、教員選考委員会にて最終評価を行った。 ・上の検討結果を統合報告書等の毎年の取り組み状況のデータ、レビューとともに各国立高等専門学校に共有・展開を検討した。 ・KISについて、実施校から、あるいは説明会等に参加し情報収集を行い、受審に向けた準備を開始している。			A	◎
③-1	教務	教務	・情報機械システム工学科では、1年から5年まで正規科目としてPBLを配置済み。実践事例を発信する。 ・商船学科においても各学科の特徴を活かすPBLの実施について検討する。 ・地域の自治体、文系大学等と連携し、小中学生を対象とした情報プログラミング教育を含むSTEAM教育の支援を行い、地域の理工系人材の早期発掘、人材育成を推進する。			A	◎
③-2	研究主事	企画・地域連携	・鳥羽商船高専連携協会の会員企業にPBL発表会や卒業研究の見学会を実施し三重県内の企業と連携した教育コンテンツの開発について検討を行った。 ・インターンシップなどの共同教育について、コロナ禍で浸透したオンライン実施の良いところも継承しつつ、対面での実施を推進する。 ・これらの取り組み事例を取りまとめ、テクノセンター報などに掲載し、各国立高専への周知を行う。			A	◎
③-3	情報メディア教育センター	総務	・学生のリテラシ教育においては、ITパスポート試験・情報セキュリティマネジメント試験・基本情報技術者試験等の問題を教材として活用している。 ・K-SEC提供のサイバーセキュリティ教材等を用いた実践教育を継続している。 ・三重県警サイバー犯罪対策課による情報教育の機会を設け、高度サイバーセキュリティ人材の育成に努める。 ・教職員においては、Mie CS-ISACの枠組みを活かし、情報共有や講習を通じて教員の指導力向上に繋げることで、サイバーセキュリティ教育の高度化をはかる。			A	◎
④	教員選考	人事労務	・技術科学大学との人事交流について検討した。			A	◎
(5) 学生支援・生活支援等							
①	学生	学生生活	・学生相談は、教職員での対応のほか、精神科医1名及び臨床心理士2名、スクールソーシャルワーカー1名、計4名の専門職で必要に応じて実施している。 ・学生に対し、いじめアンケートを3回（6月、10月、12月）実施し、結果に基づきいじめ防止対策委員会を開催した。（6/28、7/18、8/24、10/30、12/7に開催）状況確認を行い随時個別対応を行っている。 また、学期開始の全校集会時に学生主事より注意喚起を行った。（4月、5月、9月） ・高専生活に関するアンケートを2回（6月、10月）実施し、要観察学生に対しては、学生相談室長等による面談を実施した。 ・教職員に対し、いじめ問題への対応の研修として、スクールカウンセラーによる講演を対面にて実施した。（9/7） ・学生に対し、スクールカウンセラーによるいじめ防止に関する講演を録画視聴にて実施した。（10/11、12/13） ・学生に対し、スクールソーシャルワーカーによる「自分を守るSSWの役割」に関する講演を録画視聴にて実施した。（6/20） ・教職員に対し、スクールソーシャルワーカーによる「SSWの役割」に関する講演を対面にて実施した。（6/20）			S	◎
②	学生	学生生活	・新入生入学説明会時に主だった貸与奨学金の案内を行った。 ・ホームページにも主な貸与奨学金情報を掲載し周知している。 ・Teamsの全学生向けチーム内のチャンネルにて、募集案内の到着時に速やかに奨学金の募集を案内している。			A	◎

令和5年度 鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況							
令和5年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、本校独自の以下自己評価標準を用いる。							
S：計画をはるかに上回る実績を残した A：達成度 100%以上 B：達成度 70%～100%未満 C：達成度 70%未満 -：該当なし							
年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等	計画に対する課題	鳥羽商船自己点検評価	(参考)各係の自己点検評価	(参考)各係の達成状況
③	キャリア教育推進室	学生生活	(1) 社会人基礎力養成 ・新入生オリエンテーション(コミュニケーション力向上)を実施(4/21) ・ピアサポーター養成トレーニングを遠隔により実施。スクールカウンセラーによる講演会やグループワークを実施(9/30) (2) 就職力養成 ① 人材広告企業による遠隔講義 ・工業系3、4年生を対象としたWeb 適性検査と就職活動講座(11/22) ・工業系3、4年生を対象とした面接対策講座(11/29) ② セミナー ・海事・工業系就職支援セミナー(12/14対面形式、139社参加)			S	◎
1. 2 社会連携に関する事項							
①	研究主事	企画・地域連携	・教員の研究分野や研究成果について、科研費の審査員も閲覧する可能性が高いResearch Mapへ最新の情報を掲載するように依頼して状況を確認している。(Research Map掲載教員数 54名中54名) ・シーズ集の改訂を次年度に向けて検討した。 ・共同研究、受託研究の成果をまとめ、テクノセンター報をホームページに掲載する他、鳥羽商船連携協会の会員企業向けへの案内を行った。			A	◎
②	テクノセンター	企画・地域連携	・KRA、テクノセンター、鳥羽商船高専連携協会の、高専研究ネットワーク等を活用し、産業界や地方公共団体との新たな共同研究・受託研究の受け入れを促進している。 ・具体的には、今年度も、三重県や県内企業を絡めた研究開発委託等の実績があがっている。一例として県内の海運企業と包括連携協定を締結して学術のみならず、船員の交流や災害時の協力を含め定めていたが、国交省の「令和5年度 海の次世代モビリティの利活用に関する実証事業」として、海の次世代モビリティの我が国沿岸・離島地域における新たな利活用を実現するための実験に採択された。 その他に以下の受託研究等を実施している。 ・NICT：ブルーカーボン貯留量の自動計測システムの開発による漁村の脱炭素・収益向上に向けた取り組み(KDDIなど) ・ローカル5G等の新しい通信技術を活用した地域課題解決モデルの創出にむけた社会実証の請負(ZIVなど) ・農研機構：中山間カンキツ産地における人・もの・土地のシェアリングによるサステナブル産地モデルの実現(三重県など)			S	◎
③-1	(機構本部のみの計画のため、省略)						
③-2	広報部会	総務	・学校行事、各種イベント開催、コンテスト結果等について積極的にプレスリリースする。 ・学校公式YouTube及び学校公式Facebookにて広報活動を行う。 ・Twitter、Instagramのアカウントを開設し、情報発信の手段を増やす。			S	◎
	紀要部会	図書	・ホームページに図書館の利用案内の情報を掲載し、一般市民の利用促進を行っている。また、本校公式SNS(Facebook、Instagram)に図書館の紹介記事を掲載し、新たな情報発信を行った。			A	◎
1. 3 国際交流等に関する事項							
①-1	グローバル教育推進室	総務担当補佐	・従来実施してきた国際交流事業について、関係各機関と検討している。また、機構本部等と情報共有しながらニュージーランド・ベトナムなどへの交流拡大に努めている。			S	◎
①-2 ①-5	(機構本部のみの計画のため、省略)						
②	グローバル教育推進室	総務担当補佐	・海外留学を経験した学生の発表を、学生だけでなく教職員にも案内し参加を促すことで、学校全体の国際化の重要性の普及に努めた。発表の様子は学内関係者限定で視聴できるようにした。タイ高専への教員派遣候補者の学内募集や留学生の受け入れ等にも組織的に取り組んでいる。			A	◎
③-1	教務グローバル教育推進室	学生生活	・MELキャンプ(シンガポール)を2024年3月実施することを計画している(約2週間)。 ・「鳥羽商船高等専門学校の主催事業における海外渡航及び滞在に関する実施基準」に沿って、外務省海外安全ホームページを確認したうえで安全な地域であることを確認したうえでプログラムを作成している。 ・今年度海外渡航した学生たちや留学生の国際交流報告会を11月24日に実施した。 ・ニュージーランドの教育機関(ネルソン・マルボロ・インスティテュートオブテクノロジー、NMIT)と新しく連携し、商船学科と情報機械システム工学科の学生を1週間程度派遣するプログラムを2024年2月に計画、学生への周知を行ったが、参加希望者がいなかったため、連携先教育機関をふやすために教員のみで渡航する予定である。【再掲】				

令和5年度 鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和5年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、本校独自の以下自己評価標語を用いる。

- S：計画をはるかに上回る実績を残した
- A：達成度 100%以上
- B：達成度 70%～100%未満
- C：達成度 70%未満
- ：該当なし

年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等	計画に対する課題	鳥羽商船 自己点検評価	(参考) 各係の自己点 検評価	(参考) 各係の達成状 況
③-2 ・海外渡航及びオンラインも用いた海外教育機関の留学生との交流を実施する。 ・短期留学生を積極的に受け入れて、日本人学生と交流させることにより、日本国内でも国際コミュニケーション力を向上させる。 ・学外講師を招いて実施するTOEIC対策特別講座などを通じて、積極的な英語力向上に関する支援を行う。 ・オンラインでの自学自習を促進するために、英語学習のアプリ導入を行う。【再掲】	グローバル 教育推進室	学生生活	・2024年3月にシンガポールポリテクニクの学生を受け入れて1か月程度のプログラムを実施することを計画していたが、SP側が学生を派遣することができないという連絡があり、今年度は中止となった。 ・SMAの学生を受け入れて鳥羽丸トレーニングを実施することを計画していたが、SMAから日本に学生を派遣することができないという連絡があり、今年度は中止となった。 ・本校学生のTOEICを通じた英語力の向上に向けては、外部講師を招聘しTOEIC対策特別講座を実施し、10名の学生が参加した。(10/7～9) ・オンラインでの自学自習を促進するために、オンライン学習システム「ALC NetAcademy NEXT」を導入し、8月10日に学生に周知した。【再掲】		/	/	/

令和5年度 鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況								
令和5年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、本校独自の以下自己評価標語を用いる。 S：計画をはるかに上回る実績を残した A：達成度 100%以上 B：達成度 70%～100%未満 C：達成度 70%未満 -：該当なし								
年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等	計画に対する課題	鳥羽商船自己点検評価	(参考)各係の自己点検評価	(参考)各係の達成状況	
③-3	グローバル教育推進室	学生生活	・外部の各種奨学金制度については、学内の主要な掲示板上に掲載するとともに、関係指導教員にも通知し、学生への情報提供に努める。 ・「トビタテ！留学JAPAN」プログラムに関する学内説明会を行うだけでなく、学生の申請を支援する。 ・国際会議の開催案内を学内掲示、ポータルサイト、メール等で情報共有し、応募を促す。【再掲】	・外部の各種奨学金制度については、学内の主要な掲示板上に掲載するとともに、グローバル教育推進室員にも通知し、学生への情報提供を行っている。 ・「トビタテ！留学JAPAN」プログラムの高専機構主催の説明会を学生に周知するとともに、学校主催の説明会も開催を予定している。また、学生の申請書の書き方の指導や面接練習などを行い、書類申請を支援する。 ・国際会議の開催案内が来たら学内掲示、ポータルサイト、メール周知等を行っている。【再掲】				
④-1		総務 総務担当補佐	・学校ホームページの自動翻訳ツールを導入済み、継続して使用する。【再掲】					
④-2		学生生活	・日タイ産業人材育成協カイニシアティブに基づく留学生の受入を引き続き検討する。	・日タイ産業人材育成協カイニシアティブに基づく留学生の受入を引き続き検討する一方、タイ国からの専攻科生を受け入れた。		A	◎	
⑤		学生生活	・令和元年度に作成した「鳥羽商船高等専門学校の主催事業における海外渡航及び滞在に関する実施基準」に沿った危機管理措置を講じ、海外渡航時の安全面への配慮を行う。 ・外国人留学生に関しては、資格外活動状況のヒアリングを定期的実施する。	・令和元年度に作成した「鳥羽商船高等専門学校の主催事業における海外渡航及び滞在に関する実施基準」に沿った危機管理措置を講じ、海外渡航時の安全面への配慮を行っている。 ・外国人留学生に関しては、資格外活動状況のヒアリングを適切に実施している。		S	◎	
2. 1 一般管理費等の効率化								
		事務部 校長	・事務の効率化及び管理経費の削減を推進する。	・事務の効率化に加えて管理経費の削減に努める一方、修繕・故障への支出も避けられない状況のもとで、電気代の高騰により、7月1日から9月30日まで、各トイレの温水便座の温度設定をオフにすることで、昼休み事務室の電気を消す等、電気代の節約を行った。 ・ビズリーチを通じて学校経営（BPR）アドバイザーを採用し、業務効率化についてコンサルティングを開始した。 ・事務補佐員の配置状況を見直し、R6年度に向けて人件費削減可能とする見直しを得た。		A	◎	
2. 2 一般管理費等の効率化（機構本部のみの計画のため、省略）								
2. 3 契約の適正化								
		調達	・引き続き真にやむを得ない場合を除き一般競争入札等によることを徹底する。 ・他高専とのさらなる共同調達を検討する。また、物品の低廉な調達を目指し、近隣高専、大学との連携の在り方を探る。 ・入札結果等、公開可能な契約情報をホームページ上に公開する。	・真にやむを得ない場合を除き一般競争入札を行った。 ・公用車の燃料については、鈴鹿高専と共同で契約事務を行っている。今年度については、共同調達案件はない。 ・入札結果をホームページで速やかに公開した。		A	◎	
3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画								
3. 1 一般管理費等の効率化（機構本部のみの計画のため、省略）								
3. 2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加								
		研究主事	・鳥羽商船高専連携協会の会員企業と積極的に交流を行い、共同研究、委託研究を推進する。 ・外部資金の獲得については、研究助成に対する応募を積極的に行うために、テクノセンターの研究支援部門が公募情報の案内や申請書の執筆支援を行う。 ・同窓会とも連携し、創設150周年の記念事業に向けた基金の設置を行い、寄附活動を推進し、これらの募集には寄付者にとって利便性の高い決済手段を導入し、ホームページ等で適切な案内を行う。 ・外部資金や寄附金による経過や成果についてテクノセンター報にまとめホームページに掲載する他、寄附者への案内を行う	・科学研究費については、全教員・技術職員の申請を推進し、校内査読を実施し申請率98%となった。 ・各種公募情報に基づき、外部資金への応募も推進した結果、A-STEP、NICT、農研機構など多くの受託研究・共同研究が受託できている。（13件、13,665千円） ・創設150周年の記念事業に関する委員会を組織し、基金を立ち上げ、寄附活動を推進するため、同窓会や連携協会の会員向けに案内を行っている。 ・外部資金や寄附金による経過や成果についてテクノセンター報にまとめホームページに掲載する他、寄附者への案内を行う。		A	◎	
4 短期借入金の限度額（機構本部のみの計画のため、省略）								
5 不要財産の処分に関する計画（機構本部のみの計画のため、省略）								
6 重要な財産の譲渡に関する計画（機構本部のみの計画のため、省略）								
7 剰余金の使途（機構本部のみの計画のため、省略）								
8. その他主務省令で定める業務運営に関する事項								
8. 1 施設及び設備に関する計画								
①-1	校長 情報メディア教育センター 施設環境整備	財務担当補佐 総務 施設	・混住型学生寮については、昨年度の概算要求資料を見直し、より精査した内容での要求を行った。 ・トイレ整備について、現状の整備状況確認を行った。トイレのつまりや不具合が発生しているため、小規模修繕工事にて対応した。			A	◎	
	紀要部会	図書	・ラーニング・コモンズの具体的教育活用を進めつつ、並行して図書、学術雑誌、視聴覚資料等の収集及び当該業務の電子化・効率化を通じて、図書館の学習支援機能の強化を図ることで、本校における情報メディア教育を充実させる。	・公開講座やクラブ活動において、ラーニングコモンズに設置した大型ディスプレイやホワイトボードを活用している。また、学生から要望がある図書の購入を推進するためにオンラインブックハンティングを実施した。		A	◎	

令和5年度 鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和5年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、本校独自の以下自己評価標語を用いる。

- S：計画をはるかに上回る実績を残した
- A：達成度 100%以上
- B：達成度 70%～100%未満
- C：達成度 70%未満
- ：該当なし

年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等	計画に対する課題	鳥羽商船 自己点検評価	(参考) 各係の自己点 検評価	(参考) 各係の達成状 況
①-2 ・昨年に引き続き眺察食堂、隣接する眺察浴室について非構造部材の劣化が見受けられるため、引き続き改修工事の要求を実施する。	施設環境整備	施設	・混住型学生寮の整備に伴い、眺察食堂及び浴室の今後の改修計画を検討中である。また、緊急性の高い箇所での劣化が発生した場合は、小規模修繕工事に対応するよう取り組んでいる。			A	◎
② ・学生及び教職員を対象に、「実験実習安全必携」を配付するとともに、安全衛生管理のための各種講習会を実施する。	安全衛生	人事労務	・12月に消防署員を講師に招いてAED講習会（普通救命講習Ⅰ）を開催した。14名が受講した。			A	◎
②-2 ・「実験実習安全必携」を学生に周知し、安全管理を促す。	安全衛生	教務	・「実験実習安全必携」を学生便覧に盛り込み、学生へ配布した。			A	◎



令和5年度 鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況								
令和5年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、本校独自の以下自己評価標語を用いる。 S：計画をはるかに上回る実績を残した A：達成度 100%以上 B：達成度 70%～100%未満 C：達成度 70%未満 -：該当なし								
年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等	計画に対する課題	鳥羽商船自己点検評価	(参考)各係の自己点検評価	(参考)各係の達成状況	
③		施設環境整備	施設	・男女共同参画だけでなく、多文化交流の場となるよう混住型学生寮の計画を行った。		A	◎	
8. 2 人事に関する計画								
(1) 方針								
①			人事労務 学生生活	・引き続き部活動の外部指導員を雇用した。		A	◎	
②	教員選考	人事労務		・校長・副校長を中心に検討を重ね、学科の枠にとらわれずに人員枠を運用している。		A	◎	
③	教員選考	人事労務		・校長・副校長を中心に長期的な視点に立ち、検討した。		A	◎	
④-1	教員選考	人事労務		・専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つとして、博士の学位を有する者を原則とする。【再掲】				
④-2	教員選考	人事労務		・大学・高専成長分野転換支援基金等を利用したクロスアポイントメント制度の活用について検討し、相手方企業と協議した。【再掲】				
④-3		人事労務		・ライフステージに応じた柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組を周知している。 ・育児休業から復帰した女性教員のライフサイクルに合わせ、早出労働勤務・在宅勤務を適用している。 ・育児中の男性教員に、所定外労働の免除、在宅勤務等の配慮を実施している。 ・前年に引き続き女性研究者支援プログラム（研究支援員配置）に応募し採択された。【再掲】				
④-4	教員選考	人事労務		・外国人教員の積極的な採用について継続的に検討している。採用実績を有している。【再掲】				
④-5	ダイバーシティ推進室	総務		・今年度からダイバーシティ推進室長を中心に、ダイバーシティ推進室の室員と定期的話し合いの場を設け、運営方針について協議した。 ・Teams、メールを通して、男女共同参画やダイバーシティ推進室に関するイベント情報を教職員・学生へ配信している。 ・明石高専の工藤教授による学生向けの女性研究者のキャリア形成、ワーク・ライフ・バランスに関する授業を1月12日に実施会を2月22日に実施した。 ・3月13日に本校主催の第3ブロック男女共同参画推進協議会を開催した。 ・女子トイレに設置したサンタリー用品の利用度についてアンケートを実施し、改善を行った。		S	◎	
⑤		人事労務 教務		・教職員の積極的な人事交流を進め、多様な人材育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を推進する。 ・4月から技術職員1名、10月から事務職員1名を高専機構本部へ派遣している（交流期間各2年）。 ・高専間教員異動希望調査を活用して令和6年4月から2名の教員を受入れることとなった。 ・校内の新任教職員研修を実施した。（8名受講） ・近隣大学と連携して、メンタル・業務改善等をテーマとした教職員研修を実施した。（計8回、延べ292名受講） ・本部の補助を得て、昨年度に引き続き事務職員向けの語学研修を企画・実施した。（6名受講）		S	◎	
(2) 人員に関する指標（機構本部のみの計画のため、省略）								
8. 3 情報セキュリティについて								
		情報メディア教育センター	総務	・昨年度、BYOD端末の学内持ち込みに対する対策としてセキュリティアプライアンスを整備した。当該機器を活用し、セキュリティアップデートやウイルス対策ソフトの定義ファイルが更新されていないBYOD端末の監視を行い、学内LANの安全性向上をはかる。 ・引き続き「政府機関等のサイバーセキュリティ対策のための統一基準群」に基づき、本校のセキュリティポリシー関連規則のアップデートをはかる。「すぐやる3箇条」を周知徹底し、定期的にセキュリティインシデントの予防および被害拡大を防ぐための啓発として事例紹介等を継続的に周知している。 ・セキュリティ管理委員会を開催し、前述のセキュリティ教育状況について受講数等推進状況を確認し、必要があれば対策の有効性について議論・見直しを行っている。 ・Azure Information Protection (AIP) や Azure Rights Management service (Azure RMS) 等の Information Rights Management (IRM) 活用に関する周知および運用方法の提案を行い、職責等に応じて必要となる実践的な情報セキュリティ教育を継続する。 ・Mie CS-ISACに参画し、外部セキュリティコンサルやアンチウイルスベンダーおよび近隣地域機関と共同で情報セキュリティインシデントの予防活動に取り組む。		A	◎	
8. 4 内部統制の充実・強化								
①-1 ～ ②-1 (機構本部のみの計画のため、省略)								
②-2		校長	総務	・本部から「コンプライアンス・マニュアル」及び「セルフチェックリスト」により、教職員のコンプライアンスの向上を図る。		A	◎	
②-3 ～ ③ (機構本部のみの計画のため、省略)								

令和5年度 鳥羽商船高等専門学校年度計画達成状況

令和5年度の年度計画の実施状況を自己点検評価にするにあたり、本校独自の以下自己評価標語を用いる。

S：計画をはるかに上回る実績を残した

A：達成度 100%以上

B：達成度 70%～100%未満

C：達成度 70%未満

-：該当なし

年度計画	委員会等	事務	計画の進捗状況等	計画に対する課題	鳥羽商船 自己点検評価	(参考) 各係の自己点 検評価	(参考) 各係の達成状 況
④ ・公的研究費等に関する不正使用の防止策を確実に実施するとともに、教職員に対し、コンプライアンス教育研修を実施し、不正経理の防止についての周知を行う。また、研究倫理教育を行う（eラーニングにて実施）。	校長	財務・経理	・4月当初に全教職員宛に「公的研究費使用マニュアル」をメールで周知し、公的研究費使用ルールの確認を定期的に意識づけている。 ・新規採用の教職員には都度マニュアルを配付し、公的研究費の使用ルールについて説明している。 ・四半期に一度、全教職員に向けて公的研究費の不正使用防止のための啓発をメールにて行っている。 ・コンプライアンス研修については2月にeラーニングにて実施した。			A	◎